

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う 日本災害医療ロジスティクス研修の感染対策要領

岩手医科大学
災害時地域医療支援教育センター
センター長 眞瀬 智彦

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、令和2年度の日本災害医療ロジスティクス研修（以下、「本研修」という。）は中止とし、令和3年度はeラーニングによる講義のみの開催となった。一方で、コロナ禍であっても災害医療ロジスティクスに必要な知識・技術の維持、資質の向上を目的として研修を実施する必要がある。このような状況を踏まえて、本研修運営事務局（以下、「事務局」という。）では、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う救急・災害医療に関わる研修の開催指針（ガイドライン）（2020年東京オリンピック・パラリンピックに係る救急災害医療体制検討合同委員会）に準拠した「新型コロナウイルス感染症の流行に伴う日本災害医療ロジスティクス研修の感染対策要領」（以下、「要領」という。）を作成し、本要領に基づいて研修を実施する。

2 研修の開催

（1）基本的な考え方

従来の研修をそのまま継続するのではなく、可能な限りオンライン化することによって、集合研修の時間をできるだけ減らして実施する。

（2）研修開催の判断

新型コロナウイルス感染症の感染状況や、行政の方針を十分に考慮し、本研修運営委員長（以下、委員長）がその実施可否を判断する。

3 研修の感染対策

（1）開催の準備

① 健康管理

事務局は、研修前・研修中・研修後に実施すべき事項に応じて、参加者の健康管理、感染対策の指導及び必要な物品の管理等を実施する。

② 事前の情報提供と情報収集

- ア 感染防止対策について全ての参加者に事前に情報提供する。
- イ 事務局は、参加者の名簿を作成する。

③ 感染防止用資器材の準備

事務局は、参加者数及び研修用器具数に応じて、以下の感染防止用資器材を準備する。なお、各品目の規格等は基準であり、同等の規格であれば問題はない。

- ・ 個人感染防護資用：マスク、手指消毒薬（エタノール濃度約60～90%）
- ・ 研修用器具消毒用：除菌クロス（アルコール濃度約70～90%）

④ その他

大きな声を出すのを避けるため、事務局は、参加者数及び会場の特性に応じて、マイク、拡声器を準備する。トイレは比較的感染リスクが高い場所であり、トイレのハンドドライヤーの使用停止を周知するとともに、ハンドソープ及びペーパータオルを設置する。

(2) 当日の研修開始前

① 参加者の健康状態の把握と入場

ア 事務局は、以下の業務を行う。

- ・サーモグラフィ等による参加者の体温測定
- ・来場者に対する密を避けるためのアナウンス
- ・参加者に対する「別添1：新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための参加者（受講者、講師）へのお願い」を配布
- ・参加者に対する「別添2：新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための健康チェックリスト」の提出（毎朝）を周知
- ・参加者に対するマスクの着用及び手指消毒の周知
- ・研修予定者が自己判断により研修を辞退した場合の今後の参加予定等の説明

イ 委員長が、新型コロナウイルス感染の可能性があると判断した場合、研修参加予定者に対する参加辞退の依頼を行う。

② 感染対策の説明

事務局は、以下の業務を行う。

- ・研修中の感染対策に関するアナウンス（手洗いの方法、咳エチケット、身体距離の保持、食事時の注意事項等）を行う。

(3) 研修開催中

① 基本的な対応

事務局は、以下の業務を行う。

- ・参加者に対するマスク着用、手指衛生の指導、参加者からの質問対応を行う。
- ・全員に対するアナウンス（感染予防に対する事務局員の役割を含む。）及び換気の確保を行う。
- ・講義毎に使用した資器材（マイク、PC、レーザーポインター等）の消毒を行う。
- ・研修会場の出入口に手指消毒剤を設置する。

② 身体距離の確保

- ・事務局は、各実習等の開始に際し、各実習等の特性に応じた身体距離の確保について周知する。
- ・講師等は、受講者に対して、必要な注意喚起を行う。
- ・事務局は、適宜に会場を巡回し、必要に応じて適切な指導・助言を行う。

② マスクの着用

- ・研修会場内では常時マスクを着用することを基本とする。マスクの有無にかかわらず大声を出すことを控えるよう促す。
- ・事務局は、マスクを忘れた研修者及び携行したマスクが汚染等により使用不可能となった研修者に対して、予備のマスクを配布する。

③ 手指衛生

事務局は、以下の業務を行う。

- ・入退出時、実技研修の区切りごと、食事の前後、人と直接接触する場合の前後などでは手洗い
や手指消毒を周知する。
- ・委員長は、前項について実施状況を確認し、必要により指導する。

④ 使用物品等の消毒

- ・講師及び事務局は、複数人で使用する資器材（パソコン、マイク等）は使用毎に消毒液を用い
て清拭消毒する。この際、必要に応じて受講者自身に清拭させることは妨げないが、適切な清
拭方法を指導する。
- ・テーブル、椅子の背もたれ、ドアノブなどの高頻度接触部位についても同様である。

⑤ 換気の確保

- ・会場出入口のドアはできるだけ開放しておく。閉鎖せざるを得ない場合でも一定時間ごとに換
気を行う。冷暖房が作動していても換気は必要となる。

⑥ 飲食時の注意点

事務局は、飲食に際して、以下の事項を周知する。

- ・飲食前の手洗いの徹底
- ・対面での食事及び食事中の会話の禁止

⑦ 実践研修での注意点

前述①～⑥の注意点に加え、実践研修では同じ班の参加者と長時間行動を共にすることとなるた
め、事務局は、実践研修に際して、以下の事項を周知する。

- ・車両での移動中、マスク着用を徹底し、適宜換気する。
- ・ポータブルトイレを使用する際、使用後は本人が汚物を適切に処理し、触れた場所をアルコー
ルで毎回消毒する。
- ・就寝時に十分な距離を取ることを、マスク着用などの注意点を周知する。

(4) 研修終了後

① 連絡体制の確保

事務局は、研修終了後7日間は事務局にその情報を受ける窓口を設置する旨を周知する。

② 参加者に新型コロナウイルス感染が判明した場合の対応

- ・委員長等は、参加者から新型コロナウイルスに感染したとの連絡を受けた場合、事務局に命
じ、速やかに管轄保健所等の聞き取りに協力し、必要な情報提供を行う。
- ・事務局は、保健所等との窓口となり保健所からの指示を得つつ、保健所による濃厚接触者リス
ト作成に協力する。
- ・事務局は、研修後に参加者から新型コロナウイルスに感染したとの連絡を受けた場合、参加者
に対して研修に参加した旨を保健所等に確実に伝えるように参加者に周知する。
- ・事務局は、参加者全員に、参加者の中から新型コロナウイルスの感染が生じたことを伝える。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための参加者（受講者、講師）へのお願い

岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、当分の間、次の方は参加をお断りしています。体調が回復するなどしたのちに、改めてご参加いただきますようお願いいたします。

1. 現在、発熱（平熱より高い体温、あるいは体温が37.5℃以上を目安とする。）、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁、鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気、嘔吐、味覚障害、嗅覚障害などの症状のある方
2. 過去2週間以内に発熱（平熱より高い体温、あるいは体温が37.5以上を目安とする。）のあった方
3. 過去2週間以内に、厚生労働省が「健康状態に異常のない方も含め、自宅などで入国の次の日から起算して14日間待機」を求める国・地域から入国した方
4. 2週間以内に、新型コロナウイルスの患者に濃厚接触の可能性があり、待機期間内（自主待機も含む）の方

※高齢者、糖尿病・心不全・呼吸器疾患の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方などの新型コロナウイルスに感染すると悪化しやすいとされる方も、当面的間、研修への参加は見合わせるのが望ましい。

研修の開催に際して、次の点をお願いしています。ご協力いただけない場合には研修への参加をお断りする場合がありますのであらかじめご留意願います。

1. 研修中は各自マスクを着用していただきます。マスクは参加者ご自身で用意してください。
2. 入口等にアルコール消毒液を用意しますので、参加者には会場への入室時と退室時のほか、研修中も適宜手指消毒をお願いします。アルコールを使えない方には、界面活性剤配合のハンドソープ等により手洗いををお願いします。
3. 研修中は換気を定期的に行うため、室温変化に対応可能な衣類を手元にご用意ください。
4. 受付、研修中、休憩中などでは、密集・密接を防ぐことにご協力をお願いします。
5. 会場施設入口等で、健康チェックリストへの記入をお願いし、非接触型体温計等で体温を実測させていただきます。それらの結果によってはご参加いただけない場合があります。
6. 研修中、体調が悪い時には速やかにお申し出ください。状況によっては帰宅をお願いする場合があります。
7. 研修終了後に、新型コロナウイルス感染症に罹患した疑いが生じた場合には、主催者に連絡をお願いします。新型コロナウイルス感染症に関連して主催者から連絡をとる場合もあります。保健所に対し、参加者の連絡先などについて情報提供する場合がありますのであらかじめご了承ください。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための健康チェックリスト

1. 現在の状況について教えてください。

- | | | |
|--|------------------------------|-----------------------------|
| (1) 体温 _____ 度
平熱より高い体温である、あるいは体温が 37.5℃以上ですか | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (2) 咳、呼吸困難 ありますか？ | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (3) 全身倦怠感 ありますか？ | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (4) 咽頭痛 ありますか？ | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (5) 鼻汁、鼻閉 ありますか？ | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (6) 頭痛 ありますか？ | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (7) 関節痛、筋肉痛 ありますか？ | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (8) 下痢 ありますか？ | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (9) 嘔気、嘔吐 ありますか？ | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (10) 味覚障害、嗅覚障害 ありますか？ | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |

2. これまでの状況について教えてください。

- | | | |
|---|------------------------------|-----------------------------|
| (11) 過去 2 週間以内に発熱（平熱より高い体温、あるいは体温が 37.5℃以上を目安とする。）があった。 | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (12) 過去 2 週間以内に、厚生労働省が「健康状態に異常のない方も含め、自宅などで入国の次の日から起算して 14 日間待機」を求める国・地域から入国した。 | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| (13) 新型コロナウイルスの患者に濃厚接触の可能性があり、待機期間内（自主待機も含む）である。 | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |

※主催者が定めた基準に該当する場合や主催者側の医師等が、新型コロナウイルス感染の可能性があると判断した場合は研修に参加できません。

令和 年 月 日

氏名 _____

所属 _____